

広報九州



平成21年6月10日

(2009年)

No 1649

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

<http://www.kyusyu.kokuyutin.go.jp/>



第5回森林と緑の子どもスケッチ大会に参加の児童ら

みどりの月間

親子でみどりのを感じて スケッチ大会に177人が参加

4月29日、みどりの月間(4月15日～5月14日)の行事として、親子で樹木などに向き合うことで、森林やみどりの素晴らしさに気付いてもらおうと、「第5回監物台樹木園森林と緑の子どもスケッチ大会」を監物

台樹木園で開催。一般公募による52組の小学生と保護者など177人の参加者が、園内の樹木などをスケッチ、樹木園や森林に関する標語の作成、森林教室(木工クラフト作成)を行いました。

の会にスタッフとして協力していただきました。

晴天の暖かな春の日差しの中、子どもたちは

春の日差しの中、子どもたちは各々お気に入りのポイントを見つけて真剣にスケッチに取り組んでいました。また、怒留湯先生から直接絵のアドバイスも

生から直接絵のアドバイスをもらったり、家族と一緒にスケッチ

をする参加者や樹木をじっくり観察してスケッチする者など

思い思いに画いた、感性豊かな作品が、つぎつぎと仕上がりました。

参加者の方々からも「家族みんなで楽しめました。木の名前をいろいろ覚えることが出来ました。来年もまた参加したい」

などの声が寄せられました。

なお、5月16日～31日には、みどりの交流館(監物台樹木園内)でスケッチ(89作品)、

標語(77作品)、当日の写真を一般公開しました。

入賞者は次のとおりです。

スケッチの部

緑の普及大賞 小山 泰生

タイトル「大きなイチヨウ」

宮城勇朗計画部長が、監物台樹木園には約80種類の樹木が

あります。スケッチの後は園内を回って1つでも

樹木の名前を覚えて下さい」と

あいさつをしました。

当日、講師として菊池市在住の美術家怒留湯

誓先生をお迎えするとともに、

NPO法人災害通信ネットワーク、監物台樹木

園花壇づくり友



親子でスケッチする参加者



緑の普及大賞小山さんの作品

緑の普及賞 橋田 実空・武澤 直徳・古村 菜々美・中野 紋更・荒木 愛華

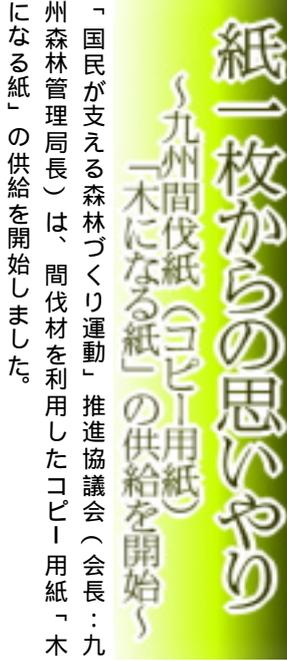
標語の部 最優秀賞 橋田 実空・みどりいっぱいうれしいな はっぱのともだちおどってる

優秀賞 坂本 勇也・松本 詩加・島田 匠・津山 勝志・定永 諒

(担当＝指導普及課)

平成21年度の主な取組事項

当局的平成21年度の「重点取組事項」については、4月に記者発表し、本紙5月号にその項目を掲載しましたが、今回からその主な取組事項を随時紹介します。今回は「九州間伐紙」木になる紙の供給開始です。



経緯 九州森林管理局では、間伐材の入った紙を開発、普及することによって山を元気にさせるための方針のもと、県、製紙会社などが参画した標記協議会を平成18年12月に立ち上げ、封筒、ファイルなどの間伐材製品の普及に



木になる紙をPRする協議会メンバー＝九州森林管理局



間伐材を使ったコピー用紙

初めて参りました。平成21年2月、グリーン購入法の調達基準が改正され、間伐材の入ったコピー用紙が調達品目に追加されました。「木になる紙(コピー用紙)」は、グリーン購入法の調達基準改正後初めての適合製品です。また、昨年5月には、九州7県と当局は、九州間伐紙の購入を推進することとした「九州の間伐材に関する共同宣言」

を採択しております。「木になる紙」の概要
「木になる紙」とは上記協議会が命名した間伐紙の商品シリーズです。本コピー用紙は、大王製紙㈱が製造しました。同製品は、環境貢献度を示す総合評価値が86点と高得点です。(21年度は70点以上、22年度からは80点以上がグリーン購入法適合)
「木になる紙」の調達とチップの供給
協議会メンバーは自ら「木になる紙」の調達を行うとともに市町村、企業、学校、団体などへ協力依頼を行うこととしています。現時点で調達を設定しているところは林野庁、環境省、福岡県、佐賀県、佐賀市、九州電力などです。今後、各方面に協力依頼を行い、調達量の大幅増大を図ることとしています。間伐紙の製造に必要なチップは九州各地の森林組合などから



間伐材を使ったファイル

集めることとしており、この体制整備を図っていく必要性があります。
「木になる紙」づかい宣言
協議会は、今年4月23日、「木になる紙」づかい宣言を行いました。今後は、協議会会員が「木になる紙」シリーズの率先調達や各機関への普及活動を行う予定です。
今後の取組方向
今後の「木になる紙」の需要の拡大を図るとともに、販売による収益の一部を、間伐材推進へ活用させる仕組みづくりに取り組みます。
九州間伐紙および「国民が支える森林づくり運動」推進協議会の詳細については、当局ホームページをご覧ください。
<http://www.rinya.naf.go.jp/kyusyu/kikaku/kabatsushi.html>
(担当＝企画調整室)



間伐材を使った封筒

路網整備で検証作業

【熊本南部森林管理署】当署では、崩れにくい低コスト路網の線形、作設技術の向上と定着を一層推進することを目的とし、署内関係者、森林官、林業事業者のオペレータを構成員に、路網整備プロジェクトを設置し、現地検討会や作設技術の向上を目指した活動をしています。今回、プロジェクトメンバーを5班に分け、20年度作設した路網の検証作業を行いました。検証は、路肩の転圧、線形の取り方などのチェックを行い、悪いところ、良いところの意見を出し合いました。結果については、今年度の事業実行に活かしていくとともにデータの積み重ねを行っていくことにしています。



検証作業を行うプロジェクトメンバー＝熊本南部



保護ネットを設置する参加者 = 宮崎北部

シカ対策に40人参加

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬町の波帰国有林において、五ヶ瀬町森林空間総合利用地域運営協議会主催によるシカ食害対策が行われ、当署職員、五ヶ瀬町役場職員、霧立山地の自然環境を守る会や一般市民など約40人が参加しました。五ヶ瀬町役場地域振興課長の挨拶の後、高千穂森林事務所森林官が作業の内容を説明し、2班に分かれて作業を開始しました。ヤマシヤク

採材検討会で知識深める

【熊本南部森林管理署】人吉市の素材流通センターにおいて署関係者、林業事業者および

定供給システムの協定相手方を交えて採材検討会を開催。当日は、スギ、ヒノキの曲がり材のサンプル材を用意し、生産現場からの意見、受け入れ側の意見を出し合い認識の相違点を浮き彫りにし、より一層の採材制度の向上と知識を深めました。また、検討会後は当署へ移動し、労働安全、崩れにくい低コスト路網の現地検証結果などについて、意見交換会を行い意思の統一を図りました。



用意した材を前に意見交換を行う参加者 = 熊本南部



杉本哲也さん

私の国有林モニターへのきっかけは、以前から山登りをしていて森林づくりに関心があり、たいへん興味を持っておりました。小さいころ、春にはワラビやゼンマイなどの山菜を探り、秋には自生のカキやクリを拾って食べた雑木林が遊び場でした。その山林では、後継者不足もあ

り、間伐や枝打ちもされない個所が目立ち始め、杉ばかり緑一色のような現状です。そのような山林に対して何か役に立つことはと考えていた折、友人からモニターのことを聞き、多少不安もありましたが「友人が一緒」と聞き参加してみようと思いい応募しました。

しかし、国有林モニターがどのようなものか雲をつかむような気持ちでモニターブロッック大分県会議に参加しました。午前中は豊後大野市内の国有林での植樹祭で、ボランティア団体の方、地元の方や地元小学生たちの全員で植え付け作業を行い、森林の大切さを皆さんと一緒に学びました。

未来へ続く森林づくり

現在、林業は森林を育てる人が不足しています。手を入れないと森は荒れてしまい、土砂の流出が起きたり、木々による二酸化炭素の吸収が減つてくると云う悪条件に繋がりがねません。森林の手入れが必要です。しかも、日本は国土の3分の2を森

でも大切な役割を担っています。このような事柄を聞きあらためて国有林の大切さを痛感しました。午後からは保護林の冊子を5年ぶりに全面刷新する予定とのことで意見交換があり、多くの意見が出ました。この時、私

林が占める森林国で、森林面積の3割が国有林と聞いています。その国有林の多くは奥地の標高の高い脊梁山脈地帯に位置しており、山崩れや洪水などの災害を防止する働きや水資源を貯める働き、また、貴重な動植物の生息の場としての働きなどと

はある記事を読み出しました。それは1年ほど前の地方新聞に「後絶たぬ希少動植物の違法採取」という見出しに「県民の“目”で守ろう推進員を初公募」という内容で記載されていました。もちろん山林の維持や管理整備も確かに必要なことですが、

あまり整備され山林に入りやすくなり希少動植物の違法採取に繋がっても困ります。その為にも希少動植物の存在をPRし“皆の目”で守っていくことが必要ではないかと思えます。生物多様性の保全と持続を可能にするのは、色んな団体、企業、それに個人一人ひとりが自覚し積極的に取り組む姿勢が必要だと思います。

今、私はNPO法人の森林ボランティア団体に参加させてもらい森林保全活動を行っています。ですが一人でも多くの人が、生き物の命をばくむ森林、未来に続いていく森林づくりに連携、協働して欲しいと思います。

(大分県大分市在住)



佐賀森林管理署

鹿島森林事務所

首席森林官 井上和也

佐賀県と言えば、先ず思い浮かぶのは、日本三大松原の一つである虹の松原でしょう。防風林として植林したのが始まりで、約四百年の歴史があり、延長4・5キロ、幅約500メートル、面積は約230ヘクタールにおよぶクロマツ林が有名で、特別名勝に指定されています。

さて、佐賀県で一番高い山といえば、私が管轄する経ヶ岳（1076メートル）です。

多良岳山系に属し、一体は自然性、希少性の高い山々が存在



し、天然記念物のツクシヤクナゲが自生するなど、独自の植物層が形成されています。その一角に経ヶ岳はあり、すぐれた

佐賀県の最高峰「経ヶ岳」 すぐれた自然環境を形成

自然環境を形づくっています。登山ルートは、数多くありますが、平谷キャンプ場より、平谷越馬背、経ヶ岳で90分程度で登山するコースがおすすです。一部岩場や急斜面などがありますが、興味がある方は森林浴を兼ねていかがですか。

経ヶ岳の麓には、鹿島市との分収造林契約箇所、郷土の森（約8ヘクタール）があり、森林教室などに利用されています。一方で、山林に広葉樹を植栽し海産物資源の栄養源として森林の効用を高めようとする海の森プロジェクト



ウト（33・7歳）も行われ、現在も地元小学生をはじめ毎年300人程度の参加があり、上・下流が一体となつて森林を守り続けています。

当森林事務所管内では登山、森林浴、紅葉狩りと四季を通じて入林者が絶えず、年々増加傾向にあります。このため森林パトロールなども重要となつており、きめ細やかな保全管理活動を通じて植物の荒廃などの防止、入込利用者などへの啓発活動を進めています。今後とも、水源

のかん養やレクの森などの重要な役割のある森林の整備に努め、絶えず前向きに山づくりに取り組みたいと考えます。



初夏の鶴見岳を散策する参加者 = 大分西部

ミヤマキリシマ鑑賞会に49人

【大分西部森林管理署】近鉄・別府ロープウェイと共催し「鶴見岳ミヤマキリシマ観賞登山会」を開きました。当日は一般公募した参加者49人がロープウェイで山頂広場に集合。4班に分かれ、スタッフの案内により、鶴見岳山頂から鞍ヶ戸を経由し、鶴見岳西登山口までの約6キロのコースを散策しながらミヤマキリシマなどの植物観察を行いました。当日は霧が立ち込めるあいにくの天候でしたが、満開のミヤマキリシマを始めベニドウダン、ツクシヤブウツギなどの花々やめずらしい植物に歓声を上げながら、初夏の1日を楽しんでいました。

ウサギからの被害防止に汗

【宮崎北部森林管理署】日向市の「お倉ヶ浜ふれあいの森」において、日向市ふるさとの自然を守る会と協働で、ウサギ被害防止ネットの補修および幼令樹保護ネットを設置しました。当日は当署職員および守る会会員16人が参加し、汗を流しながら約200メートルに亘って野ウサギなどの補強を行いました。昨年度の植樹個所の一部にも幼令樹防護ネット100基の設置を併せて行いました。今後、海岸林内の抵抗性マツの被害が減少し、青々としたマツ林を市民の方々が楽しめることを期待しています。



ウサギ被害防止ネット補修に汗 = 宮崎北部



来年の再会を誓い記念撮影 = 熊本南部

【熊本南部森林管理署】大畑国有林「千年の森林」で会員ら約50人が家族連れで参加し、「緑のオナー友の会」の総会が開かれました。総会では、「緑のオナー友の会」運営について来年以降も存続することが承認されたのはじめ、多くの審議が行われました。総会終了後、1・5haのヤマツツジ20本の記念植樹を行い、参加者らは、心地よい汗をかきながら楽しく丁寧に植樹を行いました。その後、ビンゴゲームやスイカ割りを行い、バーベキュー、豚汁、たかみち飯など、屋外料理を堪能しながら親睦を深め、楽しいひとときを過ごし、

来年の再会を誓いながら散会しました。

中学生が屋久島の自然学ぶ

【屋久島森林管理署】宮之浦中学校においてお届け講座を行いました。今回の講座は同中学校から、屋久島の自然などについて講義してもらいたいとの要請があり、1年生46人を対象に行ったものです。当日は、好天に恵まれ室内の温度は夏日を思わせる状態となり、汗をかきながらの講座となりましたが、生徒は屋久島の自然や森の働きなどの話に熱心に聞き入っていました。



屋久島の自然を学ぶ生徒 = 屋久島

した。最後に翌日に大鼓岩まで登山することになっていると聞き、登山におけるマナーや安全確保についてお願いし、修了しました。

間伐展示林を視察研修

【大分森林管理署】大分県森林整備センターによる林業作業士育成研修生など25人が、当署星岳国有林にある間伐展示林を視察しました。同研修所による間伐展示林での視察研修は平成17年度から毎年受け入れており、展示林内の列状、帯状、鋸谷式間伐など多様な間伐方法に対する研修生の関心は高く、今後も当展示林を活用していくよう



展示林を視察する研修生 = 大分

世界へ広がる「てるはの森」

「九州森林管理局」「宮崎県」「綾町」「財団法人・日本自然保護協会」そして私が事務局を務めていただいている市民活動団体「てるはの森の会」の5者で協定を結び宮崎県綾町の国有林を核に、照葉樹林帯の保護・復元に取り組み「綾の照葉樹林プロジェクト」が開始されて4年目に入りました。このプロジェクトは、50年から100年の歳月をかけて人工林を元の植生（照葉樹林帯）に戻していこうという計画です。綾の照葉樹林帯中心で、約2000haほどあります。その周りには人工林が



てるはの森の会
事務局長
石田達也さん

することを目的としています。私どもの「てるはの森の会」では、このプロジェクト全体の事務局を運営し、市民参加による植生調査や、宮崎森林管理署にご指導を仰ぎながら間伐ボラ

植林されており、およそ25箇所のパッチ状・線状に残る照葉樹林帯が点在しています。その人工林で分断されたところをつないで照葉樹林帯に復元する活動をしています。このプロジェクトはまだ始まったばかりですが、多くの方々に支えられながら少しずつですが着実な成果を挙げています。宮崎にお越しの際は、是非「綾の照葉樹林」にお立ち寄りいただき、照葉樹林の魅力満喫してみてください。

選木技術者研修会を開く

【屋久島森林管理署】当署乗生森林事務所管内の国有林において、当署職員および請負事業者4社の計30人が参加し、「選木技術者研修会」を行いました。これは、「適切な森林整備の技術の習得と間伐における適正本数の知識について理解を深めてもらうこと」を目的に開催。現地では、4班に分かれ、特に列間の選木、伐倒を行い、間伐実施前実施後の状況などを確認しました。



現地で間伐状況の確認をする参加者 = 屋久島

治山事業計画を地元説明

【鹿児島森林管理署】当署が行っている桜島地区民有林直轄治山事業の今年度の事業計画に



現地で視察を行う一行 = 鹿児島

ついて、地域のご理解、ご協力を得るため、また、関係機関との連携を図るために鹿児島市桜島支所内で地元説明会を開きました。当該地区は、昭和51年度に着工以来、上流域の荒廃の拡大防止や流失土砂の抑止・軽減を図るため、これまで深間工や山腹工などの事業を積極的に進めてきました。当日は地元の公民館長をはじめ市関係者や報道関係者など約30人が参加する中、事業計画などの説明を実施。意見交換の後、八谷沢流域などの施工現場を視察を行いました。参加者からは、「上流域の整備により近年は土石流の発生も少なくなりました。今後も事業の継続にご尽力願いたい」とのお礼の言葉をいただきました。

小学生が森の働きを学ぶ



樹木の名前を覚える児童ら = 宮崎北部

【宮崎北部森林管理署】日之影町立日之影小学校3年生13人を対象に「お届け講座」を実施。はじめに紙芝居を用い森林の働きや役割について説明。また、環境教育で「山ではたらく人々の仕事」について学んでいることから、今回、スギの保育作業について説明を行いました。次に、「校庭の樹木名や特徴を覚える」などのコーナーでは、職員手作りの資料をヒントに樹木などの名前を覚えようと児童らは真剣に頑張っていました。最後に、「木の種類はどれくらいあるの。高い木は何があるの」などの多くの質問が寄せられ、楽しいお届け講座となりました。

平成21年度 九州森林管理局 **受講者募集中** 美しい森林づくり 参加国民運動に参加しています。

おしらせ 「実践・公開講座」

九州森林管理局では、森林の恵みやすさを広げ、自然の大切さを理解していただくために「実践・公開講座」を実施しております。今年度も九州森林インストラクター会と共同開催する講座も計画しております。つきましては、皆様のご応募をお待ちしております。

応募要領

1. 応募方法・・・各講座ごとに募集期間下記のとおりです。はがきにて用紙・氏名（ふりがな）・年齢・電話（FAX）番号を記入のうえ、下記までお申し込み下さい。（FAX可）後日、実施案内（連絡通知）をお送りします。
2. 募集定員・・・各講座とも30名程度とします。
3. 応募締切・・・先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。
4. その他・・・受講料は目安です。（材料代、資料代、保険料が含まれます。）開催場所はすべて動物台樹木園となります。

平成21年度「実践・公開講座」実施予定表

| 講座名 | 実施日時 | 受講料 | 募集期間 |
|-----------------------|----------------------|-----------|--------------|
| 第1回 森の構造を学ぶ | 6月28日(日) 9:30～12:00 | 300円 | 6月26日～6月12日 |
| 第2回 森林の公益的機能を知る(伐採手帳) | 7月26日(日) 9:30～12:00 | 400円 | 6月22日～7月10日 |
| 第3回 森を遊ぼう!カラダに新鮮な空気 | 8月23日(日) 9:30～14:00 | 600円 | 7月21日～8月7日 |
| 第4回 草木染め | 10月25日(日) 9:30～12:00 | 400～1300円 | 9月18日～10月9日 |
| 第5回 リース作り(木材の利用) | 12月13日(日) 9:30～12:00 | 600円 | 11月9日～11月27日 |
| 第6回 竹細工 | 1月24日(日) 9:30～15:00 | 300円 | 12月14日～1月8日 |

※注意: 駐車場利用の方は別途駐車料300円が必要となります。



お申し込み・お問い合わせ先
九州森林管理局 指導普及課（担当：森の普及係）
〒860-0081 熊本高京町本丁2番7号
TEL 096-3160-6637 FAX 096-326-7062

広報九州が優秀賞 林業関係広報コンクールで

広報紙「広報九州」が、林業関係広報誌コンクールにおいて広報誌部門で「優秀賞」を受賞。

当コンクールは、全国林業改良普及協会が毎年行っているもので今回で43回目。

この受賞は、日頃から広報・広聴活動へ感心とご協力をいただき、皆さまから多くの原稿を寄せていただいた賜です。心よりお礼申し上げます。

広報九州も4月号からは電子的媒体として九州森林管理局のホームページでの提供となりましたが、今後とも皆さんに親し



西場会長より表彰状を授与 = 東京都

広葉樹350本を植樹

【大分西部森林管理署】瀬ノ本国有林スギ造林地の被害跡地を整備し、さらに美しい自然景観にするため、ヤマザクラなどの広葉樹350本を植樹しました。当日は、晴天に恵まれ、環境省・くじゅう自然保護官事務所・九重の自然を守る会、九重・飯田高原観光協会、地元の飯田長者原駐在所、当署職員の約30人が参加しました。参加者は、急傾斜地での作業に悪戦苦闘していました。が、「将来ここを通るときに、あの木は自分が植えた」と自慢したい。花が咲くのが



植樹に参加した皆さん = 大分西部

屋久島の自然に先生も興味

【屋久島森林管理署】永田中腕力の強化です。体力の低下、健康上の不安は加齢に伴う誰もが迎える必然ではありますが、何事も努力によって改善され、その先に喜びがあるものと思います。きっと、この努力により筋力が鍛えられ、ドライバーの飛距離は250ヤード以上となり、九州の飛ばし屋に対抗できるのではと思っております。

初年度の目標は、数キロは走れ上半身を支えることができる。脚力、体幹を包む適度な背筋・腹筋、子供を抱いても痛まな

1000の再生

1000歩程も走ることができなくなつた脚と息苦しくなる心臓、姪の3歳の娘を抱いたときの腕の痛みなど、言葉に出せば情けなくなる状況

とが、物理的な走りは全く困難となつてしまいました。

「1000の再生」

5月16日付森林管理局長発令
福岡署森林官
井川武史（沖縄署）

人のうごき



熱心に説明を聞く生徒ら = 屋久島

学校において、全校生徒14人を対象にお届け講座を行いました。これは、同中学校が毎年行っている永田岳学校登山に際して、永田岳の特徴や見所、屋久島の自然、ヤクスギの特徴、森林の役割と機能などについて要請があつたものです。当日は短い時間での講座でしたが、資料を配布してパワーポイントなどで説明しました。講座には校長先生をはじめ先生方も参加され質問もされましたが、日ごろ触れることのない内容に興味を抱かれたようです。最後に生徒代表からお礼の言葉を頂きました。

日田市と屋久島町が 友好交流協定を締結

大分県日田市（佐藤陽一市長）と屋久島町（日高十七郎町長）は、5月23日に津元頼光九州森林管理局長仲介のもと、三隈川水上ステージで友好交流協定を締結しました。

協定は、旧前津江村（現日田市前津江町）と旧上屋久町（現屋久島町）が平成6年に当時の熊本営林局長仲介のもと友好盟約に調印したのが縁となり、その後、互いに合併を経て、両市町に共通する林業や観光を中心にさらに交流を深めようとの思



調印後、協力を誓い握手する関係者

いから、今回の調印への運びとなったものです。

今後は、林業、経済、観光教育、文化などさまざまな分野での相互協力が行われることになり、地域の振興、活性化への寄与が期待されます。

（担当＝企画調整室長）



各地に自生している落葉樹木。私が小さい時、農家の畑、畦などに植えられて、収穫後釜で湯がいて皮を剥き、乾かして和紙の材料として出荷されていたのを覚えている。

球状の果実と見られるのは、実際の小さい果実がイチゴのように集まった集合果で赤く熟して甘い、花糸部分が残る舌触りが悪いので美味しいとは言えない。コウゾはカジノキとヒメコウゾの雑種と云われカジノキとは全く別種で、ツルクウゾも落葉藤本で枝が蔓状に伸びコウ

サイクルロードキル防止呼びかけ

【沖縄森林管理署】沖縄本島北部の東村および国頭村の県道において、当署、環境省、県など関係者によるヤンバルクイナなど希少野生動物の交通死亡事故（ロードキル）防止キャンペーンを行いました。当署からは5人の職員が参加し、「ヤンバルクイナに気をつけて運転して下さい」とチラシを手渡し、ロードキル防止の呼びかけを行



いました。

チラシを手渡す参加者＝沖縄

②②コウゾ（クワ科）

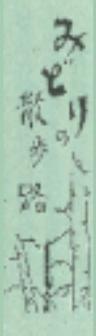
ゾとは別種である。

葉は単葉や掌状3〜5に中から深裂しさらに分裂することもある。山野に自生しているヤマグワ（通称クワ）とコウゾの葉は全く同じ様に分裂し、同じ形になるので判別しがたい。葉柄を観察して溝があるときはヤマグワ、ないときはコウゾと判別すれば間違いない。

名前は紙を作っていたので紙麻（かみそ）と呼ばれていたのがこうぞ（かうぞ）になったと一説にあるが定かではない。コウゾは雌雄異株で高さ6mに達する。監物台樹木園の西側、丸



太小屋前のコウゾは胸高直径約20cm、高さは6mを超えて成長限界に達している2本のコウゾが見られる。



先週、自宅から車で10分程行った所にある八代市の国指定名勝史跡の「松浜軒」へ行ってみました。元禄元年に八代城主三代松井直之が母のために建てた御茶屋で、美しい庭園があり四季折々の花が楽しめます。今の時期は、肥後六花の一つである「肥後菖蒲」が見頃を迎え、池には蓮の花が咲き園内を散策しながら久しぶりに花を楽しむことができました。遠出もいいものですが、たまには地元の観光地に足を運んでみるのもいいものです。さて、九州でも平年より4日遅れて梅雨入りしました。この時期はジメジメとして湿気も多くなります。カビなどが発生しないように梅雨対策も必要ですが、雨が多くなるため車を運転する時には視界も悪くなります。車の運転には十分に気をつけて安全運転を心がけたいものです。今回「広報九州」が全国林業改良普及協会の第四十三回林業関係広報コンクールで「優秀賞」を受賞しました。これも皆さんのご支援とご協力の賜であり、これからも皆さんに親しまれる広報紙を作成していきたいと思います。（恵）